

准教授 鎌倉 博

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
◎教育方法の実践例		①小学校学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針にあるねらいを学生に理解できるよう明示する。 ②屋外や大学周辺のフィールド等も活用して実習活動を取り入れた。 ③自身が小学校・幼稚園現場で作成した授業プリントや学級通信、子どもの作品などを具体的に提示したり、撮影してきた写真をスライドショーで見せたりして実践イメージを深めた。 ③学生自身の討議・発表力育成の場を極力設けた。 ④ゼミで担当するⅡⅢⅣの学生の交流を図り、最後に1つにまとめた『研究集』冊子を作った。
◎作成した教科書・教材		①小学校学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針、並びに拙著『きらめく小学生』を主に使用した。 ②自前の授業プリントを毎回作成するとともに、学生が討議した際にはそのまとめを原稿データ化し授業通信も作成して活用した。 ③優れた実践記録や研究書も補助教材として活用した。
◎当該教員の教育上の能力に関する大学の評価		「2015年度授業アンケート調査結果報告書」の個人データをいただいた。その結果、担当した授業やゼミでは学部平均超えの評価点であった。
◎その他		北名古屋市の「緑のカーテン」事業に協賛し、授業の一環として学生と委嘱し栽培・美化に努めた。

職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要	
附属クリエ幼稚園長	2016. 4. 1～現在に至る	幼稚園経営を進めるとともに、教育実習以外にも名芸生と幼児と触れ合う機会が増えるように相互を繋ぐ仕事を進めた。	
全学学生委員会	2015. 4～2017. 3	標記委員会の議論に参加し、与えられた任務を遂行する努力をした。	
全学FD・SD実施点検委員会			
全学教職センター委員会			
学部学生委員会			
学部将来計画委員会			
全学入試改革委員会	2016. 4～9		
学部春を呼ぶ芸術フェスティバル実行委員会	2015. 4～現在に至る		
学部入試改革プロジェクト	2017. 1～現在に至る		
学部広報活動としての高校訪問・模擬授業等	2015. 4～現在に至る	入試広報に関わる要請に積極的に応えた。	
実習指導	2015年度～現在に至る	実習現場での小学校・幼稚園・保育所・施設実習生を激励・助言するとともに、保育所実習指導Ⅱを担当し事前・事後指導にも当たった。	
就職試験対策指導	2015年度～現在に至る	校務としての割り当てだけでなく学生からの求めにも応じて、教員・保育士試験のための履歴書・小論文作成、面接・グループ討議指導を行った。	
名古屋芸術大学保育専門学校教育課程編成委員会	2016. 4～現在に至る	それぞれの要請に応じて、任務遂行に努めた。	
名古屋自由学院滝子幼稚園アドバイザー	2016. 4～現在に至る		
愛知県立大学非常勤講師（保育内容論環境）	2016. 4～現在に至る		
愛知県私立幼稚園連盟理事	2016. 5～2017. 5		
愛知県私立幼稚園連盟愛北支部長	2016. 5～2017. 5		
福祉法人ゆたか会あかつき共同作業所まつり支援活動	2015年度～現在に至る		
日本生活教育連盟第69回夏季全国研究集会分科会世話人（現在は代表世話人）	1985年度頃～現在に至る（生活指導、ことばと教育、幼年教育の分科会で）		各所属学会・研究団体・研究集会の中のそれぞれの分科会をとりまとめ、当日の司会進行や、報告される実践について今後実践がさらに発展する立場で評価したりアドバイスしたりした。
民主教育研究所教育課程研究委員会委員（名古屋に移住したため現在はオブザーバー委員）	2006年度～現在に至る		
東京教育研究集会国語教育分科会共同研究者	2014年度～現在に至る		
教育研究全国集会生活指導・自治活動分科会共同研究者	2015年度～現在に至る		
愛知の教育を考えるつどい小学校の授業・学級づくり分科会共同研究者	2016年度～現在に至る		

第69回日本保育学会E3幼保一体化・幼保小連携など座長		2016. 5. 8		
著書, 学術論文等の名称	単著, 共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
◎学術論文 2つの幼稚園で挑んでいる「心感創造の教育」	単	2017. 2. 18	名古屋芸術大学生涯学習講座紀要 pp. 6①-6⑩	自身が園長として関わった2つの幼稚園での取り組みとして、子どもたちの意欲をクラス活動として発展させていった事例を紹介し、それを意義づけた。
『ろくべえまってるよ』の教科書教材文の考察—初版絵本文との比較研究から—	単	2017. 3. 20	名古屋芸術大学教職センター紀要 第5巻 pp. 15-28	教科書教材にある文学作品が初版された絵本から書き換えられていることから、作品の価値が損なわれていないかをまず検証し、その価値を落とさずにできる授業のヒントを提起した。
世界の学校とつながって教育のあり方を考える—韓国の新教育とミラル・トゥレ学校—	単	2017. 3. 30	名古屋芸術大学研究紀要 38巻 pp. 85-104	受験体制が日本以上に厳しい韓国において、慈悲と博愛の精神から子どもを大事にする教育を展開する動きがある。その象徴としてのミラル・トゥレ学校について、現地視察等と私が企画した特別公開講座でのチョン校長の講演をもとに紹介し意味づけた。
教員・保育士を目指す学生の動物に触れる体験の意義と授業実践	単	2017. 3. 30	名古屋芸術大学人間発達研究所年報 第5・6巻合併号 pp. 1-14	そもそもなぜ「動物との関わり」が子どもたちにとって有益なのか多角的に分析しながら、その意義を発揮できる幼稚園教員・保育所保育士を目指して大学で何が出来るのか、しなくては行けないかを考察した。
◎学会発表 幼小連携の鍵となる開かれた小学校と教育連携	単	2016. 5. 8	日本保育学会第69回大会 E3 幼保一体化・幼保小連携など	同じ敷地にある幼稚園と小学校の教育連携を図るために、自身が校長兼園長としてコーディネートしてきた際の経過と障壁についてまとめ、幼小連携に向けての教訓と課題を提起した。
今、学力の質を問う	共同	2016. 6. 25	中部教育学会第65回大会公開シンポジウム	中部大学豊田ひさき先生がコーディネートするシンポジストの1人として発言。小学校教員33年の経験を標記テーマで集約し、特に「学力の質」についてどのようにとらえ、どのような研究活動を進めていけばよいかについて提起した。シンポジストは他に川地亜弥子神戸大学大学院准教授と湯浅恭正中部大学教授。
国語科のカリキュラムをレイアウトする	単	2016. 8. 6	日本生活教育連盟第68回夏季全国研究集会ことばと教育分科会	国語科の性格がどのように変遷してきたのかをまず紹介した上で、ことばを味わって読み表現する時間に特化した国語科カリキュラムに精選していくことの必要性を、実際の授業実践を通して提起した。

◎実践報告・分析文等 5年生の体の変化と1人1人の心を見つめ合う	単	2016. 7. 1	愛知民間教育研究団体連絡協議会機関紙「愛知民協連ニュース」No. 160 pp. 2-9	和光小学校5年生担任時に取り組んだ総合学習「思春期のからだところ」の実践記録。思春期の子どもの抱える心身の悩みを「アンケート」結果を介してクラスに公表しながら語り合い、自分と他人を受け止め合っていた。
日本語を楽しむ深め認識・内面・表現を豊かにしていく教育	単	2016. 8. 1	日本生活教育連盟第68回夏季全国研究会要項 pp. 37-40	近年の国語教育動向は国語科が本来担ってきた性格を変え、すべての教育活動で身につけるべきことばの力の育成を国語科に担わされてきている。そのことでの問題点を指摘し、改めて国語科の果たすべき役割を提起した。
幼児理解を深める保育者要請を目指して	単	2017. 2. 1	生活教育 819号 pp. 44-45	「仲間の輪の中で育つ—乳幼児期の子どもの発達—」をテーマにした特集の中のコラムとして、現在取り組んでいる学生向け授業の悪戦苦闘を紹介した。
保育活動の質を向上させていくための実践的考察	単	2017. 2. 28	名古屋芸術大学附属クリエ幼稚園研究紀要 pp. 49-63	平成28年度に附属クリエ幼稚園において挑んできた取り組みを紹介・分析しながら、施設物的環境、人的環境、保育活動を構成する内容環境、保護者・大学・地域・外部識者等の協力環境の4点でどう評価できるのか、何が課題となっているのかを提起した。
◎講演・特別講義等 子どもを「ど真ん中」に置いて国語の授業をレイアウトする	単	2017. 7. 29	児童言語研究会名古屋支部	国語科の性格がどのように変遷してきたのかをまず紹介した上で、ことばを味わって読み表現する時間に特化した国語科カリキュラムに精選していくことの必要性を、実際の授業実践を通して提起した。
今どきの子どもに育むべきこと	単	2016. 9. 23	日本福祉大学子ども発達学D講座	江戸時代以降のライフスタイルの変化とともにどう子育てが変容してきているのかを示しながら、生きづらさを抱えている家庭においていかに手を差し伸べる保育・教育が必要かを語った。
こんなとき、子どもがかがやく	単	2016. 11. 13	春日井の教育を語る市民のつどい	明治期の幼児教育・保育誕生以来の変遷を語りながら、とりわけ今求められているのは、子どもの心を感じ取り創造した実践を子ども・保護者・保育者の連携でつくっていくことであるということ、私が園長を務めてきた2つの幼稚園の実践を例にして話した。
私の目指す教育・幼稚園づくり	単	2016. 11. 26	名古屋芸術大学生涯学習講座「保育先進国の保育政策・内容に学び日本の保育を考える」第6回講座	2つの幼稚園の実践を例にして、子ども・保護者・保育者が連携して実践を形作っていく創造的な取り組みが現代の幼児教育・保育においてはとりわけ重要である旨を話した。
今問われている「国語科」を踏まえての授業分析	共	2017. 2. 18	埼玉児童言語研究会第33回研究会シンポジウム	山口佳代子教諭の一読総合法に基づく『ウナギのなぞを追って』の授業の今日的価値と課題について発言した。共同発言者は元小学校教諭・国語の授業研究者の渡辺真由美先生。